

自然誌 だり

Natural history

三重自然誌の会情報誌 108号

2016年 6月

ハクビシンを最近よく見ます

かれこれ30年以上にわたって昼夜を問わず野山を歩いていると、遭遇する動物にもいろいろと変化がみられます。以前は見かけることがなかったのに、最近よく出会うようになった動物の代表がハクビシンです。本種は、本来の分布地は東南アジア、中国、台湾で、日本には第二次世界大戦中に毛皮獣として持ち込まれ、本州と四国での野生化が知られています（鳥居2002；外来種ハンドブック，地人書館）。



写真 A；名張市赤目町，B；伊賀市勝地，C；松阪市嬉野下之荘町，D；熊野市紀和町湯ノ口産の頭骨，E；鈴鹿市平野町（石橋正人・撮影），詳細は本文参照。

三重県では伊賀市で最初に記録され（佐野2003；紀伊半島の野生動物7），その後，いなべ市や亀山市，津市，鳥羽市，志摩市，大台町，尾鷲市からも報告されました（清水2005，2008，2010，2013；自然誌だより63/76/84/95，清水・富田2010；亀山市史，若林2016；三重の生きものだより53）。

近頃は友人知人からのハクビシン情報が急増し（ありがとうございます），また前述のように目撃する機会も多くなってきました。私には，夜の川歩きという高尚な趣味がありますので，その際に出会ったハクビシンやお寄せいただいた情報を整理して新しい順に報告しておきます。なお，食事中に本誌を読まれる会員さんの御気分配慮し，差し障りのある写真は割愛しました。

①2016年4月18日，名張市赤目町長坂（環境省3次メッシュコード 5136-6077）

赤目四十八滝溪谷内を趣味の夜川歩き（オオサンショウウオ調査）中に不動滝付近の右岸斜面で20時5分頃に目撃しました。ちょっと遠かったので写真は不鮮明ですが，ハクビシンであることは肉眼で確認できました。ゆっくりと斜面をあがって見えなくなりましたが，21時35分頃に上流の千手滝手前の右岸斜面でふたたび目撃しました。最初に逃げた個体の方向や目撃地点からみて同一個体であったと思っています（写真-A）。

②2015年7月27日，伊賀市勝地（5236-0231）

木津川支流の奥山川で趣味を楽しんでいると，20時40分頃に奥山愛宕神社付近の左岸岸辺に光る目を確認し，身を低くした姿勢からノネコかと思って近づいたところハクビシンでした。とくにあわてたようすでもなくゆっくりと反対方向に移動し，近くにあった広葉樹にするすると登っていきました。木は高さ20m，太さは30cmほどで，途中15mくらい高さの二又の部分にとどまってこちらを眺めていました（写真-B）。

③2015年6月8日，志摩市磯部町栗木広（5136-4632）

県道16号線で本会の中優さんが轢死体を発見され，その写真の提供を受けました。写真を見ると，下腹部から内臓が一部露出し，睾丸および陰茎が確認できましたのでオスと思われます。

④2014年10月31日，松阪市嬉野下之荘町（5136-7337）

自動車道嬉野PA西側の県道58号線稲葉橋付近で7時40分頃に轢死体を発見しました。破損が少なくきれいな個体でしたので，回収して標本にしようかとも一瞬思いましたが，あとの手間を考えて断念しました。乳腺がよく発達しており，授乳中のメスであることがわかります（写真-C）。

⑤2014年6月25日，大紀町崎（5136-3351）

自動車道大内山IC付近の国道42号線で7時過ぎに轢死体を発見し，写真撮影を行いました。腹部と胸部が大破し，内臓ほとんどが露出した状態でした。

⑥2013年8月4日，南伊勢町神津佐（5136-4620）

県道16号線で本会の中優さんが轢死体を発見され，その写真の提供を受けました。内臓の一部が露出し，また数度にわたって車に轢かれたらしくやや扁平な状態になっていました。

⑦2013年5月16日，熊野市紀和町湯ノ口（5035-6730）

民家に仕掛けたワナで捕獲され，畑に埋設されていたのを掘り返して頭骨だけを回収しました（写真-D）。また，同じ頃に同町板屋地内の人家の屋根裏で死亡していたとの情報も得ましたが，死体や写真等の確認はできませんでした。

⑧2012年9月28日，鈴鹿市平野町（5236-2441）

民家に仕掛けたワナで捕獲された個体の写真を津市の石橋正人さんから提供を受けました（写真-E）。石橋さんの親戚宅だそうですが，捕獲した理由等については不明です。

このように，ハクビシンの生息情報は北端のいなべ市から南は熊野市まで連続してみられることから，三重県全域に生息することは間違いなさそうです。また，交通事故死した個体の発見状況からみると個体数もけっして少なくはなさそうです。本種は，生態系への影響だけではなく家屋や農作物へも被害を与えますので注意（駆除）が必要です。

（清水善吉：松阪市日丘町 186 - 17）

キバシリの巣立ち

今 堀 聖 史

小鳥が巣立つシーンを何度か目にしていますが、キバシリの巣立ちを観察したのは初めてです。巣立ち直後のヒナの様子を紹介します。

巣を見つけたMさん夫妻と観察していた5月19日(観察し始めてから13日目)、入口の奥にヒナの顔が時々見えかくれていました。巣立つかもしれないと話していたとき、餌を啜えた親鳥が出入りしたあと入口にヒナの顔が見え、ヒナが狭い入口から体を引き上げるように出てきて上方によじ登り始めました。(突然出てきたのですが、親鳥が鳴き声で促したのかもしれませんが、いつも餌を運んでくるときに巣の近くで親鳥が一声鳴きます)ヒナの尾羽は長くないのですが、短い尾羽を扇子のように広げて体を支えています。親鳥は横に並んで見守ったり、上方から誘導したりしています(写真)。垂直の幹には樹皮がオーバーハングの所もありますが、体長10cmほどのヒナが数分で十数メートルよじ登って見えなくなってしまいました。

数分後に2羽目のヒナが出てきて1羽目と同じように登り始めました。登るコースが良くなかったのか、体力が劣るのか、何度かスリップして少し下方にずり落ちていました。3回目にスリップしたとき翼を広げて滑空し、十数メートル離れた杉の木の前元付近に降り、横にあった岩に止まりました。十数分後に近くの杉の林を丹念に見ましたが発見できませんでした。巣があった杉老木より登りやすいような若齢杉だったので安全な場所へ登れたのだと思います。その後、1時間ほど巣の入口や周辺を観察していましたが親鳥は現れなかったのでヒナは2羽だったようです。

キバシリの巣はどんな場所に作られるか興味津々でした。胸高直径が2m近い杉大木の高さ3m付近に約2cm×15cmの縦長入り口があり、キバシリの体がぎりぎり通る大きさです。親鳥が餌を啜えて樹皮の割れ目に入っていくのを見て、樹皮の裏側にある洞の内部を想像していました。鳥の巣図鑑(小海・和田2011, 東海大出版会)によるとキバシリの巣は約18cm×10cmで、洞の大きさや形状に合わせて作り、幅1cmほどの杉の樹皮や杉皮の繊維と羽で作られているそうです。

キバシリが樹皮という環境に依存して生きている姿を見ていると、木登りに適する体の特徴や垂直登攀の仕方を獲得してきた長い年月を感じます。本種に独特の“立ち幅跳び”を垂直方向に連続して行うような動きには強力な尾羽が欠かせません。キツツキ類は同じ動きに見えますが、尾羽は体を支えることが重点で、キバシリのように連続した長い距離の登攀はしません。また、ヒナに運んでくる餌を見ているとクモや昆虫類の多さに気付かされます。それらの多くは樹皮・樹幹で生活している種と思われますが、今後、撮影した写真によって少しでも同定ができればと考えています。

樹皮に生きる道を選んだキバシリ。鳴き声も、姿も、育雛も慎ましかです。晩秋から冬は、雑木林でカラ類の混群と行動していたり、太い杉の林で1羽だけで餌を探していたりします。今度出会うときはしっかり見つめようと思います。



写真 A ; 出入り口でヒナを誘導する親, B ; 出入り口から出ようとするヒナ, C ; 樹幹を上っていくヒナ(右)と見守る親(左), D ; ヒナの体型。

(いまほり きよふみ: 津市久居小野辺町1454-30)

台高山脈日出ヶ岳山頂一帯の地衣類

葛 山 博 次

台高山脈日出ヶ岳山頂（1695m）一帯はトウヒ・コメツガなどの針葉樹にブナノキ、ミズナラなどの落葉樹を混交する冷温帯性の樹林域とササ類草原からなる植生が発達している。この樹林域の樹皮着生や風倒木上に生育する地衣類40点ほどの調査資料を得た。それらのうち同定の明らかになった種について報告する。

この中には近畿地方新産の *Leptogium saturnium* ツブカワキノリ、三重県新産の3種、*Parmelia adaugescens* コウマクカラクサゴケ、*Tuckneraria togashi* トガシアワビゴケ及び *Ochrolechia yasudae* ヤスダニクイボゴケの生育を確認することができた。

同定にあたっては、山本好和先生（元秋田県立大学）の指導によることを記し深謝申し上げたい。なお、種の記載については次の通りとする。

- ①種名については「日本産の地衣類および関連菌類のチェックリスト」A Checklist of Lichens & Linchen-allies of Japan：（原田浩・岡本達哉・吉村庸2004；日本地衣学会）に従った。
- ②目録の作成については学名のA B C順に配列した。
- ③それぞれの種についての記載内容順は、学名、和名、着生樹種、標本作成者名(葛山)、標本番号とした。
- ④近畿新産、三重県新産の種を含むすべての種の分布情報は「近畿の地衣類（山本好和2009）」による。
- ⑤調査地・採集年月日はすべて三重県大台町大杉・2006年9月20日であることから目録の記載内容からは省略した。

地衣類目録

(Collector; Hiroshi Katsurayama, Date; 2006.9.20)

1. *Cladonia oniochraea* (Flörke) Spreng. ヤリノホゴケ
ブナノキ（葛山-34501, 34502）、コメツガ（葛山-34508）、トウヒ倒木上（葛山-34519）、倒木上（葛山-34521, 34523）。北海道・本州・四国・九州の暖温帯から冷温帯の樹皮上に生育する。
2. *Cladonia furcata* (Huds.) Schaer. マタゴケ
倒木上（葛山-34524）。北海道・本州・四国・九州の暖温帯から亜寒帯の地上・腐木上に生育する。
3. *Cladonia* sp. ハナゴケ属
倒木上（葛山-34522）、コメツガ（葛山-34507A）
4. *Heterodermia japonica* (M.Sato) Swinscow & Krog クロアシゲジゲジゴケ
ブナノキ（葛山-34487, 34494, 34498）。北海道・本州・四国・九州・小笠原諸島の暖・冷温帯の岩上や樹皮上に生育する。
5. *Heterodermia microphylla* (Kurok.) Skorepa チヂレウラジロゲジゲジゴケ
ブナノキ（葛山-34480, 34486）。北海道・本州・四国・九州の暖・冷温帯の岩上や樹皮上に生育する。
6. *Leptogium saturninum* (Dicks) Nyl. ツブカワキノリ、近畿地方新産
ブナノキ（葛山-34503）。本種はイワノリ科アオキノリ属の一種で、北海道、秋田、栃木、富山、静岡、島根、広島、高知の各県から報告されているが、近畿地方では初めての報告である。山地の樹皮上に生育する。
7. *Lobaria japonica* (Zahlbr.) Asah. ツヤナシエビラゴケ

- ブナノキ (葛山-34515). 北海道・本州・四国・九州の冷温帯の樹皮上に生育する.
8. *Menegazzia tarebrata* (Hoffm.) A.Massal. センシゴケ
ブナノキ (葛山-34510). 北海道・本州・四国・九州の冷温帯 (一部暖温帯) の樹皮上 (一部岩上) に生育する.
 9. *Myelochroa rugans* (Nyl.) Elix & Hale ウチキウメキゴケ
ブナノキ (葛山-34497). 北海道・本州・四国・九州の冷温帯 (一部暖温帯) の樹皮上や岩上に生育する.
 10. *Ochrolechia yasudae* Vain. ヤスダニクイボゴケ, 三重県新産
コメツガ (葛山-34504). 本種はトリハダゴケ科ニクイボ属の一種で, 北海道, 本州の冷温帯の樹皮上に生育する. 近畿地方では京都府高尾, 大台ヶ原山の奈良県側から報告がある.
 11. *Pannaria conoplea* (Ach.) Bory コフキハナビラゴケ
コメツガ (葛山-34506). 北海道・本州・四国・九州の暖温帯から冷温帯の樹皮上や岩上に生育する.
 12. *Parmelia adaugescens* Nyl. コウマクカラクサゴケ, 三重県新産
ブナノキ (葛山-34512), ミズナラ (葛山-34517). 本種はウメノキゴケ科カラクサゴケ属の一種で, 本州から四国にかけての冷温帯の樹皮上に生育する. 近畿地方では奈良県の大台ヶ原山東大台・大峰山, 和歌山県高野山で報告されている.
 13. *Parmelia laevior* Nyl. テリハゴケ (ヒモウメノキゴケ)
ブナノキ (葛山-34479, 34481, 34484, 34495, 34496, 34499), コメツガ (葛山-34505), 枯木上 (葛山-34520). 北海道・本州・四国・九州の冷温帯の樹皮上や岩上に生育する.
 14. *Parmelia praesquarrosa* Kurok ナメラカラクサゴケ
ブナノキ (葛山-34485). 北海道・本州・四国・九州の冷温帯の樹皮上に生育する.
 15. *Parmelia subdivaricata* Asah. オオナメラカラクサゴケ
ブナノキ (葛山-34493). 本州・四国の冷温帯の樹皮上に生育する.
 16. *Pertusaria subfallens* Vain. オオトリハダゴケ
ブナノキ (葛山-34488). 北海道・本州・四国・九州, 伊豆諸島の冷温帯 (一部暖温帯) の樹皮上に生育する.
 17. *Pertusaria* sp. トリハダゴケ属
ブナノキ (葛山-34500)
 18. *Stereocaulon exutum* Nyl. キゴケ
ブナノキ (葛山-34482, 34490, 34491, 34492, 34511), コメツガ (葛山-34509, ブナノキ倒木上 (葛山-34515, 34516). 北海道・本州・四国・九州の冷温帯の岩上に生育する. 台高山脈では多雨のためか樹皮上にも多く生育する.
 19. *Sticta nylanderiana* Zahlbr. テリハヨロイゴケ
ブナノキ (葛山-34483), トウヒ (葛山-34518). 北海道・本州・四国・九州 (一部暖温帯) の樹皮上に生育する.
 20. *Tuckneraria togashii* (Asah.) Randle & A.Thell トガシアワビゴケ, 三重県新産
ブナノキ倒木上 (葛山-34514). 本種はウメノキゴケ科アワビゴケ属の一種で, 本州 (栃木県以南) から四国に至る冷温帯の樹皮上に生育する. 近畿地方では奈良県大峰山・大台ヶ原山, 天川村, 和歌山県高野山で報告されている.

(かつらやま ひろし: いなべ市北勢町別名659-5)

津市久居一色町のニホントカゲについて

上 田 利 彦

これまでニホントカゲ1種と扱われていた種が、2012年にニホントカゲとヒガシニホントカゲの2種に分類されました。記載論文によると、三重県内にはおもに鈴鹿山脈および布引山地より以西にニホントカゲが、それより東方及び南勢・東紀州にはヒガシニホントカゲが生息するとされており、その生息境界がどこにあるのか、あるいはその境界付近では2種の雑種が存在するのか大変興味深いところです。しかしながら、これまで普通種として扱われていた種であるため標本も少なく、両種の分布域は明確にできないのが現状です。このため、今後は標本を含めたデータの蓄積が必要な状況にあります。

そのような状況のなか、5月2日にわが家の鶏小屋に出没するネズミを捕獲するために仕掛けたトラップにニホントカゲがかかりました。当日は仕事があったため、翌日の休日に確認することにし放置したところ、3日には並べて仕掛けた隣のトラップにも別個体がかかっていました。

その時点で、『この2個体は夫婦かあるいは兄弟かな?』と、そんなことを考えながらトラップから回収し、分類された2種の形態的な識別が頭部の前額板と呼ばれる鱗の一部の配置にあると聞きかじっていたため、とりあえず頭部の写真を撮影し、そこでひと思案、

『畏にかかってしまった相方を助けに来て隣のトラップにかかっちゃった!』とおぼしきこの2個体を標本にしてしまうか?ということでした。

- ・爬虫類は液浸標本にするのに内蔵への処理が必要(まだしたことがない)
- ・分布図ではわが家の位置はヒガシニホントカゲの範囲
- ・同じ場所、ほぼ同時期の捕獲でおそらくファミリーであり、まず同種であろう
- ・わが家の庭、畑の益獣でもあり、いざとなればまた捕ればいい 等々、

ちょっと考えた挙げ句、『これからも畑の害虫を食ってくれよ〜』とリリースすることとしました。

さて、後日、撮影した写真で前額板の配置を確認したところ、2匹の前額板の配置は明らかに異なっていることが判明しました。さらに詳細な確認を行うにはDNAによる同定のため標本が必要であり、今となっては識別するためには再捕獲するしか手だてはありません。全く情けないやら恥ずかしい話ではありますが、改めて標本採集の必要性を強く感じた出来事でした。

なお、写真に示す左右の前額板が接しているのがニホントカゲ、離れているのがヒガシニホントカゲとみられていますが、後日研究者に伺った話では、前額板には変異が見られ、ヒガシニホントカゲでも13%は接するし、ニホントカゲでも35%は離れるらしいとのことでした。

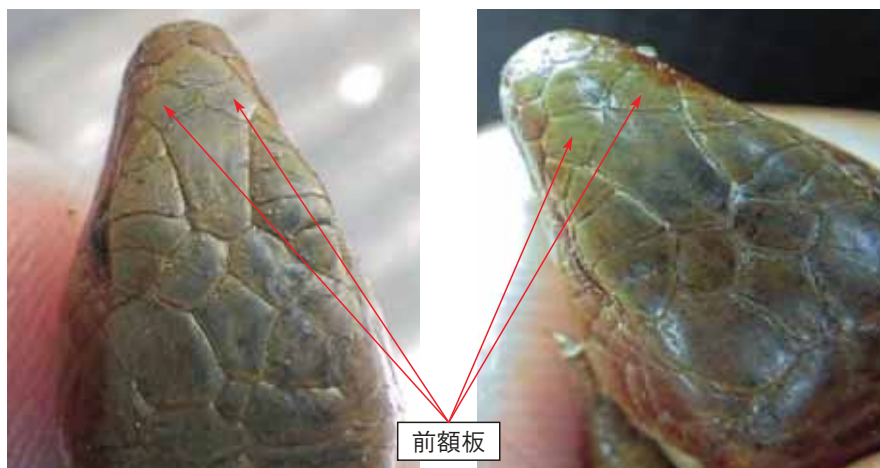


写真 左右の前額板が接しているのがニホントカゲ、離れているのがヒガシニホントカゲとされている。この識別法では左の個体がニホントカゲ、右の個体はヒガシニホントカゲとみられるが・・・

(う え だ と し ひ こ : 津 市 久 居 一 色 町)

猫が捕らえた生き物たち

篠 木 善 重

わが家の飼い猫は、今年11歳になる雑種の雌である。子猫の時に家に迷い込んで来て以来、同居している。先日、彼女が大きなネズミを家の中へ運び込んできた。近年見かけたことがない大きなネズミであった。まだ温もりが残っていたが、血も出ていたので標本にするために冷蔵庫の冷凍室に保管した。清水善吉氏に同定していただいたところ、アカネズミの雄（写真1）で、睾丸が大きいので繁殖期にあるという。



写真1 アカネズミ

昨秋にも彼女は、農機具小屋からハツカネズミをくわえて出てきた。油断して逃げられたが、ハツカネズミも警戒心が薄く、せっかく花壇へ逃げ込んだものの、スギナをのんびりとかじっていたところを（写真2）再び彼女に見つかってしまい、絶命してしまった。エタノールの液浸標本にして、清水氏にお届けしたところ、「ハツカネズミは珍しい種ではないが、これを標本にする人はなかなかいないので、貴重な標本です」と喜んでいただいた。ハツカネズミは、農家のわが家には古くから居ついていたので、粘着式のネズミ捕りシートを使って毎年のように捕獲していた。亡父や亡祖父たちはこのネズミのことをコギシロと呼んでいた。



写真2 スギナをかじるハツカネズミ

わが家の雌猫が捕まえてきたのはネズミだけではない。去年の12月には禁猟の野鳥であるツグミ科のシロハラ（写真3）を捕まえてきた。人間が捕まえたなら処罰されることになるのだろうが、わが家の猫が罰せられることはないであろう。古い写真を調べると、9年前にはアオダイショウの幼蛇（写真4）を庭で捕まえてきたこともあったことが分かった。



写真3 シロハラ

これら4種類の生き物を以下に記録しておく。ネズミ2種とヘビを同定していただいた清水善吉氏に感謝する。

記録

1. ネズミ目(齧歯目)ネズミ科 アカネズミ *Apodemus speciosus*: 津市河芸町中別保, 1 個体, 10-V. 2016, 篠木善重採集, 標本は清水善吉保管.
2. ネズミ目(齧歯目)ネズミ科 ハツカネズミ *Mus musculus*: 津市河芸町中別保, 1 個体, 22-XI. 2015, 篠木善重採集, 標本は清水善吉保管.
3. スズメ目ツグミ科 シロハラ *Turdus pallidus*: 津市河芸町中別保, 1 羽, 6-XII. 2015, 標本なし.
4. 有鱗目ナミヘビ科 アオダイショウ *Elaphe climacophora*: 津市河芸町中別保, 幼体 1 個体, 23-IX. 2007, 標本なし.



写真4 アオダイショウ幼蛇

(しのぎ よししげ: 津市河芸町中別保2230-1)

八重田池で密猟されたマガモのその後

本誌103号で紹介した(2014年11月17日に密猟された)マガモですが、標本にすべく山階鳥類研究所(千葉県我孫子市)に寄贈しました。担当者の方から、剥製化に際して何か必要でしたらと申し出が



写真 体内の散弾と思われる物体の位置(矢印)。提供:(公財)山階鳥類研究所

あったので、可能なら体内から弾を取り出しておいてほしいと依頼しました。残念ながら、弾は抽出できませんでしたが、代わりにCT写真を送ってくれました。写真をみると体内に弾が入っているのが確認できます。外傷は1カ所だけしか気づきませんでしたが、複数の散弾が入ったようです。マガモにとっては不慮の死に違いありませんが、その姿は永久に残っていきます。

(清水善吉:松阪市日丘町186-17)

会員の本

アンモナイトの約束 東海のジオストーリー50 森 勇一・著

A 5 版, 186 頁 2015 年 7 月 風媒社 定価(1600 円+税)

私事であるが、以前に某県立高校に赴任したときに「地学」は開講されていなかった。私たちの住む大地のことをないがしろにしていはいははなく、むしろ必修科目にすべきと思ったものだが、事情がわかってくると人の問題であることに気づいた。つまり、地学を開講するということは他の科目の職員が異動を余儀なくされるわけであり、その防止でもあったのである。腹がたったので、生物の履修生を大增員させ、結果として他科目の方には転勤してもらった。授業は好きでなかったが、こういうことは得意であった。

いきなり脱線して失礼! はなしを戻そう。本書の著者は現在大学の先生であるが、長い間高校の地学教諭をされていた。その森先生をして高校地学の衰退を愁い、高校生が無理なら一般の方という思いで書かれたのが本書である。2013 年 1 月から 47 回にわたって「中部経済新聞」に連載されたものに新資料を追加してまとめられている。平易な文章にたくさんの写真が添えられた 50 編の大地の物語で構成され、読んでみると「ちょっと行ってみたい」なる本である。地形や地質には文字ではない地域の歴史が記されており、その読み方を示してくれる一冊である。

なお、本会会員には 1500 円(送料込み)で販売。購入希望者は、電話 052-331-0008、ファクス 052-331-0512、メール: info@fubaisha.com で住所・電話番号明記で、風媒社の林様まで注文。



編集後記

原稿のあつまりが今ひとつで、私の記事が多くなってしまいました。スペースがあると余計なことを書きがちですので、たくさんのご投稿をお待ちしています。次号は 9 月発行予定です(善)。

自然誌だより108号

発行日 2016年6月10日

事務局 〒515-0835 松阪市日丘町1386-17

清水善吉方 三重自然誌の会

<http://www.zb.ztv.ne.jp/mie-shizenshi>

発行者 三重自然誌の会

郵便振替口座 00800-5-17842 三重自然誌の会

年会費 1,500円(個人)/2,000円(家族)

e-mail: mie-shizenshi@zb.ztv.ne.jp